

公同礼拝

2022年8月31日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 高橋和人

前 奏

招 詞 詩 編 29編1b、2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 24編7～10節 (旧855)

コリントの信徒への手紙一 15章1～5節

(新320)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 9 (1)

説 教 「キリストの復活」

牧師 姜 俔米

祈 禱

讃 美 歌 355 (1)

献 金

頌 栄 543

祝 禱

黙 禱

7月の祈り

御言葉を糧として生かされ養われていることを覚え、人の言葉に惑わされず、神の言葉を求めることができるように。

世界が主の御心が平和であることを意識し、平和を求め歩み出すことができるように。

今日の祈り

教会の信仰が常に神の御言葉によって、常に新しくされ、真の神のみ旨を求めるものとされるように。混迷した時代にあって、時が良くても悪くても、神の御心を宣べ伝えることができるように。

コロナ禍によって、健康と生活が脅かされ、弱っている人々が支えられるように。

戦火の地にあって、嘆き、悲しみ、痛み、絶望を負っている人々のために。世の指導者が主の御心である平和を求めることができるように。

「キリストの復活」 姜 俔米

コリントの信徒への手紙一 15:1～5

15章は、パウロが、このことをぜひ教え、伝えなければならないと考えて語っている所です。それは、死者の復活に関することです。死者の復活というのは、主イエス・キリストの復活のことではありません。主イエスが本当に復活したのか、そのことは事実であると前提になっています。

問題は、主イエスの復活ではなくて、私たちの復活です。私たちが、また信仰をもって死んだ人々が、世の終わりに復活し、新しい命と新しい体を与えられる、そのことについてこの15章は語っていくのです。パウロがここでこのことをぜひ語っておかなければと考えたのは、12節にあるように、コリント教会の中に、「死者の復活などない」と言っ

ている人が出てきていたからです。死者の復活についての間違った考え方がコリント教会の中に起って来ていたからです。

15章の主題は死者の復活です。パウロが語り、コリントの人々がそれを信じて教会が生まれたその教えは「福音」、「良い知らせ」ですが、その福音の中心、最も大切なことが3節の「すなわち」以下に語られているのです。

そこで注目すべき大事な言葉は、「わたしも受けたものです」という言葉です。パウロが宣べ伝えている福音は、パウロが発見したり考えたものではなくて、パウロ自身も先輩の信仰者から伝えられ、受け取ったものです。パウロはその「最も大切なこと」を受け取り、それを「最も大切なこと」としてコリントの人々にも伝えたのです。それが彼のした伝道です。

そして今、パウロがここでしようとしていることは、自分が宣べ伝えたその福音を、コリントの人々にもう一度しっかりと確認させようということです。その福音を、コリントの人々は知らないわけではありません。パウロはコリントの人々に、この福音を告げ知らせ、彼らもそれを受け入れ、信じてコリント教会が生まれたのです。ところが今、コリントの人々は、彼らが受け入れ、信じたはずの福音からそれていってしまいそうになっているのです。

キリストが私たちの罪のために死んで下さった、葬られ、そして神はキリストを死者の中から復活させて下さった、この福音の言葉を受け、それをしっかりと覚えているならば、私たちはその福音によって救われます。そのことをしっかりと確認していきたいです。